仕掛け人インタビュー vol.1

今の世の中で、必要なのは「足るを知る」ことかもしれない。

前編

スペクタクル クリエイター
松崎 淳

～目次～

- 僕ね、高慢ちきだったから、先生がいっぱいいるのよ。
- ほんとに、世の中のことを分かっていなくて、「コンセプト」という言葉の意味さえも理解できなかった。
- 北九州の動物園の現場で、やっと人間になってきたんです。30 歳ぐらいかなぁ（笑。
- 独立した理由は、「自分が何もできないこと」への恐怖かなぁ。
- クリエイターとは「破壊者」です。最近関わらせていただいた「はなのわ」でも実感したの。

僕ね、高慢ちきだったから、先生がいっぱいいるのよ。

僕、本当にバカだったの。大学は環境工学を学んでいたんだけど、設計と施工が分かれていることさえ知らなかったの。会社でケンカもするし、人を泣かせたりしてたの。だからね、本当にたくさんの人に育ってもらったのよ。

ある時ね、外注のランドスケープの設計士さんに「松崎！おまえなぁ、みんな分かっていると思ってしゃべってるけど、みんなできることは人それぞれ違うんや！」って、言われたの。その瞬間、「あーそうか、そうですね」って思ったの。

その時にね、自分のダメなところをいい方向に持っていく仕組みがいるなぁって思ったの。それが、「感謝」や「ありがとう」だったのよ。「ありがとう」って、言われた人も嬉しいけど、言った本人は自分の心をコントロールできるのよ。魔法の言葉なの。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

だからね、お世話になった人たちは常に心に止めて、「感謝すること」「ありがとう」は大事にしてるの。それを自分に言い聞かせないと、高慢ちきだからさ（笑。

ほんとに、世の中のことを分かっていなくて、「コンセプト」という言葉の意味さえも理解できなかった。

高校の時はパイロットか、医者になりたかったんだけど、一次試験に失敗してその道が絶たれたんです。その時、テレビで「砂漠緑化」の話を見て、「砂漠緑化」っていいな！と思って、環境工学科に進んだの。でもね、実験や研究なんかは全くできなくて、でも、自由に図面を描く設計は得意だったの。ただ、文章を書くのは苦手だった。「コンセプト」という意味自体も、分からなかったから、適当に書く。そして、先生にボロクソ言われて（笑。でも、外部の先生たちからの作品の評価が高かったのよ。「コンセプト」という意味が、自分の中でしっかり理解できたのは、40歳ぐらいかな。分かりやすく例を出すとね。AKB48というグループがあるでしょ？基本コンセプトは、「いつでも会える。身近なアイドル」だよね。だからデザインコンセプトは、制服っぽい衣装を着てるよね？そして、握手会したり総選挙したり、みんなが参加できるイベントするでしょ？それが運営コンセプトだよね。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

大学卒業して、設計をするためにプレック研究所へ入社。配属になったのは、設計部だったのに、仕事は設計じゃなかったの。行政の仕事で、都市計画や街づくり、緑化施策の計画づくりばっかりだった。30 歳までモノを作るところから、遠いところにいたんですよ。

そもそも、社会の勉強をしていなかったから、本当に世の中のことを分かっていなかったんです。大学時代は花屋さんで朝から夜までバイトをしていたんです。楽しかったー。人のお金でブーケが、自分の作品作れる上に、喜んでもらえる(笑。当時、あまり、就職する気がなかったくらい。大学院行こうと思ってたけど、勉強もしないから大学院に落ちて、急遽就職って感じ。

でも、会社に入ったら、思っていた仕事じゃなかったから、大学院へ戻るぞ！という感じでした（笑。でも、会社の仕事も 1 週間のうち 3 日ほど泊まるような日々が続き、そんなことも考える暇がなくなったんです。でも、僕、「会社の問題児」だったんですよ。若気の至りでいろいろ言いたい放題。なので、東京から横浜へ転勤となり、その後、九州へ行くことになりました。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

北九州の動物園の現場で、やっと人間になってきたんです。30歳ぐらいかなぁ(笑。

九州の仕事は、2年後に西鉄さんが運営していた動物園を北九州市の動物園としてオープンするということで、その設計監理が仕事だったの。それまで本格的な実施設計は、１、2件ぐらいしか経験がなく、全く分からないから、ほんとに大変だったんよ。本当に辛かった。仕事は、午前3時に終わって家に帰り、また8時からスタート、週4日徹夜で土日なしという日々が1年半続いたの。

そして、そこから現場がスタートしたの。そこで、やっと人間になってきたの。それが、30歳ぐらい。そこには本当にいろんな人がいたのよ。いろんな人がいるけど、スムーズに現場を回さないといけないし、みんなに気持ちよく仕事をしてもらわないといけない。本当にたくさんの人にお世話になったのよ。中でも、動物園の園長だった岩野俊郎さんには、動物園の設計についてだけではなく、「人間」についてや「人との接し方」も教わったの。

Copyright © 株式会社TONZAKOデザイン All Rights Reserved

その頃、僕、本当に仕事ができなかったのよ。でも、唯一できることがあったの。何かがあった時、職人さんたちより早く動くことができたの。例えば大雨が降ったら、土が崩れそうだ！となったら、率先して外へ出ていって、土嚢詰めて積んだり、水の流れを変えたり僕できるんだよ。設計やって２、３年目の若造がね、そうやって一生懸命やっていると、みんなが教えてくれるわけ。そこで設計のノウハウを叩き込んでくれたのよ。「あいつ、アホやけど頑張っとんな」って感じね。アホな子が必死で頑張ってたら、応援したくなるでしょ？それよ。

そうやって、現場の職人さんたちに育ててもらっていく中で、ある職人さんが竣工図を描けなくて困ってた時に、手伝ってくれと言われて手伝ったんだ。そしたら、お礼にとお金を渡そうとするの。でも、それ受け取れないよね。「俺、それ、もらえへんから。もう一回工事入って。そして、僕、困った時に助けて」って言ったら、その後よく助けてくれたのよ。その頃、まだ行政の人ともやり合ってたから、味方になってくれたりね。ありがたいよね。その後、愛知万博の仕事で名古屋に移ったの。何かしでかしたというカタチではない移動は、その時が初めて（笑。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

独立した理由は、「自分が何もできないこと」への恐怖かなぁ。

名古屋にはね、僕以上に変わった先輩がいたの。その先輩は行動も特殊だったし、いっぱいケンカもしたけど、「設計」についてとことん語り合ったの。その頃は、いろんな賞がいっぱいとれたの。不思議だよね。

独立しようとおもったのも、いろんな理由があるけど。一番大きいのは 2 つ。会社や都市の中にいると「何もできない人間」になりそうだと思ったんだ。例えばね、大洪水が来たとするでしょ？電気も水も何もないと言われたときに、僕何もできないわけ。自分が何もできない恐怖があって、このままじゃいけない！と思って独立したの。40 歳ぐらいかなぁ。

もう一つ理由があってね。僕、自分にも厳しかったけれど、人にも厳しかったのよ。上司とケンカするだけじゃなく、人を泣かしてしまっていたりしたの。そんな人は、会社の中にいるよりフリーになろうかなぁって思って独立したの。愛知万博の仕事が終わって、東山動物園の仕事が始まっている頃かなぁ。その後、法人化したのは、2015 年 2 月かな。

クリエイターとは「破壊者」です。
最近関わらせていただいた「はなのわ」でも実感したの。

クリエイターは、破壊しないといけないのよ。「作る」っていうことは、今までの価値観や既成概念に囚われていると、新しいものはできないじゃない？だから、そういうものを壊そうという意識があって、その壊したあとにどうするか？という考えがある人がクリエイターじゃないかなぁ。そのどうするか？という時に、地球を感じざるを得ない世の中になってきたんじゃないかな？そう考えると、今までの価値観を壊したりしないと、何も生まれてこないじゃない。

最近ね、「ひろしま はなのわ 2020」のデザインをさせてもらったの。「こういう社会になったらいいなー」というイメージしながら「空間」や「社会システム」をデザインさせてもらったの。その「デザイン」の中にはいろいろな思いがあるのよ。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

どうしても、あそこの場所が面白ければいいと思いがちじゃない？でも、お花一つをとっても、花農家さん、売る人、使う人、お世話する人もいろんな人が携わっているでしょ。もちろん、お客さんもだね。

例えば、その人達にお花の育て方を伝える。一緒にお手入れをする。すると、どんどん楽しくなって、興味を持ってくる。そうやって、関わる人たちに「自分は新しい社会を創造してるんだ」という気持ちになってもらう。そのための「空間」や「社会システム」を作れる人、それがクリエイターなんじゃないかなぁ。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

仕掛け人インタビュー vol.1

今の世の中で、必要なのは「足るを知る」ことかもしれない。

後編

スペクタクル クリエイター

松崎 淳

～目次～

- 人の心が動かないランドスケープは何の意味もない。
- 空間をつくるということは、社会と地域につながっている。地球とつながって、生きている感がある。
- 若い時は一人で何でもできると思っていた。でも、実はそうじゃないことを教えてもらったの。
- ちょっと、正しいこと言っていい？（笑。「人間が、動物としての人間らしく生きられる社会」になるといいなあと思ってる。
- 空間をつくるということは、社会と地域につながっている。地球とつながって、生きている感がある。
- 遺伝子を持っているからしょうがないよね。コロナ自体が野生界から人間界に来たんだよね。
- 雷とか台風とか大好き。地球が生きている感があるから。環境が変わることで進化って生まれるのよね。

人の心が動かないランドスケープは何の意味もない。

人の心が動かない景観や空間は意味がない気がするのよ。例えば「これがきれいだなぁ」と思ったら、「家に持って帰ってやってみようかと思う」そういう人が増えると、そこに需要が生まれるでしょ？そこに需要が生まれると、生産する人、流通する人が潤ってくるでしょ？そうすると、その人たちも頑張るから、もっといいものができてくるでしょ？そうすると、それを買う方は多様性が

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

出てくるから、もっと楽しくなっちゃうでしょ？空間って、そういう力がないとだめなのかもね。人間の目に見えるものすべてが景観だよね。都市の景観も同じだと思う。都市ってさ、魅力的、刺激的じゃないと、都市であり得ないんじゃないかな。刺激的なモノが、僕が作るものでなくてもいいんだ。なぜならば、作ったものはすぐに刺激がなくなるから。刺激を発する舞台みたいなものをつくれればいいな。それが都市のランドスケープなんじゃないかなぁ。
今、ある公園の一部の施設の設計の仕事が進んでるの。僕はそこに「舞台」を作りたいと思ってるのよ。そこにしかできない、刺激的な舞台を。楽しみにしててね（笑。

空間をつくるということは、社会と地域につながっている。地球とつながって、生きている感がある。

何のために、動物園に動物が来ているか？という話。長くなるけどいい？理不尽なところなの、動物園って。動物って本来、子孫を残すために生存しているわけじゃない？それを制限された世界なのよね。じゃ、なんで動物たちが動物園に来ているかというと、野生界の今の状況を、僕たち人間

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

に知らせるために「メッセンジャー」として来ているんだよね。そんなことを言っているのは僕だけだけどね（笑。でも、そんな風に動物園を運営してくれるといいなぁって思ってる。

動物園の歴史は省略させてもらうとして、動物園で飼育する野生動物の減少ってとんでもないじゃない？それは遺伝子の問題でもあり、血が濃くなりすぎて、動物の子孫が残らなくなる可能性とかもある。人間が地球の中で共に生活をしている生き物を失ってしまうということは、地球の財産を失ってしまうことになるんだよね。だからさ、捕まえられて動物園に来てしまった動物たちは、「メッセンジャー」として扱ってほしいんだよね。

お世話になった「到津の森公園」の岩野さんと旭山動物園の小菅さんとお会いさせていただく機会が多くて、動物園は何のためにあるんだろうね？とか、今後どうなるんだろうね？とよく話すのよ。そこの中で、自分なりに考えるの。

エモーショナルシェアって聞いたことある？一番エモーショナルシェアの評価が高かったのが劇団四季だったの。そこに参加した人が同じ心の動きをシェアできたというんだけど、今後はそういうものが必要なんだろうなぁって。

今、野生界の動物を考えないといけないんだなぁとか、自分の暮らしと密接に結びついているんだなぁとか、どんな社会になったら人間と自然環境が地球の中で生きていけるんだろうなあ？とか、そういうことを考えられるような「心の動き」というのを、動物園から発信していかなきゃいけないだろうな？って、考えるの。そんな動物園のランドスケープができたらいいよね（笑

若い時は一人で何でもできると思っていた。
でも、実はそうじゃないことを教えてもらったの。

人間一人の能力は限られているから、いい社会を作ろうと思ったら、いろんなプロフェッショナルが必要だろうなぁって。僕、基本が高慢ちきだから、自分で何でもできると思っちゃうの。でも実はそうじゃないというのを、いろんな人に教えてもらったの。

人間なんでもできるわけじゃないから、みんなの得意分野だったり、知恵を集めていけば、もっと

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

新しいことが生まれるんだろうなぁと。
ただね、誰でもいいと思ってないんだよね。自分がプロだと思っている人。そういう人達の集まりじゃないと、いいものにはならないと思ってるんだ。だからね、うちのスタッフにも、みんなにプロになって欲しい。

僕は動物園、フラワーランドスケープのプロかな。お庭を造る人ではないのよ。すっごいやつを作りたいと思ったら、声をかけてほしいかな。「見たこともないようなやつ」とか「新しいもの」だとか、「社会的に意義があるもの」だったら、僕、喜んですごいものを考えると思う（笑。

株式会社 TONZAKO デザインは 2019 年 1 月に、スタートしたんだけど、今は車でいうと「ラッピング期間」かなぁって。今はすり合わせの期間かなぁって思ってる。みんな、それぞれ価値観が違うでしょ？そのすり合わせの期間かなって。この期間のうちにぶつかってみないといけないなぁって。そのラッピング期間のうちにいいぶつかり合い方をすることで、将来楽しくなるんじゃないかなって思ってるんだけど、ありがたいことに、みんな忙しくてね。まだ、ぶつかり合えていない感じ（笑。山田さんは純粋な宇宙人。小森さんは生真面目な頑固おやじ。倉方さんは謙虚すぎるふりの探究家って感じ。どう、楽しそうでしょ？

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

ちょっと、正しいこと言っていい？（笑。
「人間が、動物としての人間らしく生きられる社会」になるといいなあと思ってる。

動物としての人間。その人間らしく生きられる社会になるお手伝いが、一つでもいいから、できればいいいんじゃないかなって思っている。

足るを知るということが、今の世の中には必要なんじゃないかな。足るを知るために、お手伝いできるとしたら、自然とのふれあいなのかなって思う。
チンパンジーだったり、ゴリラだったり、森に棲んでいたでしょう？それが草原に出てきてさ、人間らしくなり、洞窟に住みながら、動物を食って、これを育てたらもっと豊かになるぞって、田んぼとか麦を育てて、今に来てるでしょ？

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

地球に比べたら、人間の力って小さいからよかったんだけど、今はちょっと出しゃばりすぎている感じだから、色々問題がでてきてるのかな？樹林から草原へと自然から出てきているわけだから、自然に入っていくとか、自然のものを身近に感じるとか、そういうことが大事なんだろうなあと。地球が怒らないようにすることが大事なんだろうね。そして、それのお手伝いができればいいんだ。

人間って創造する動物じゃない？創造するって、学校で習うことじゃない。予期せぬことが起こった時、地球が知らない動きをした時が、一番創造して、未来を予見できる時じゃないかな。子どもが「この枝が折れるかどうか」とか、経験しながら危険や自然との付き合い方を学んでいくように、予知しないことが起こるわけじゃない？そういうところで初めて、頭を巡らすんじゃないかなと思うんだ。

都市の中の密閉された空間にいると、そういうことってなかなかないでしょ？そうすると、ちょっと先の未来を見る力が、衰える可能性があるような気がするんだよね。

自然の中って不便じゃない？だから工夫が必要なんだよね。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

創造することが無くなっていった世の中って、衰退しかないんじゃないかなぁって思ってる。

空間をつくるということは、社会と地域につながっている。地球とつながって、生きている感がある。

動物園の仕事をしてからかな、動物園の人達と仕事をしてからかな。ランドスケープとか建築をつくるということは、「社会」とか「地球」と繋がっているんだという風に感じていたんだ。

遺伝子を持っているからしょうがないよね。
コロナ自体が野生界から人間界に来たんだよね。

コロナウィルスも遺伝子を持っている生き物じゃない？それが人間界に来てるんだけど、人間のそばにいなきゃいいわけじゃないかなと思う。

ウィルスも自然界の生態的地位をもっているの。そこでは健全に生きてるわけよ。そういう風に、

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

人間の視点じゃなくて、自然の一部だという風に見ていかないといけないんじゃないかなぁって思ってる。

なぜって？コロナウィルス自身を殺してしまえとか、コロナを持っている生き物を殺してしまえ！という風に言われかねないなぁと。野生界から来ているから、野生界も消毒してしまおうとかね。そんな世の中で、いいのかなと思うんだ。

人間自体の交流範囲が広がり、動く人数が増えたことも一つの原因だと思うんだ。だから、今後、もっと他のウィルスは出てくるやろうなぁって。気候変動もあるしね。

人間って、一つのものごとについて執着するじゃない？ワクチンが出てきたら気に留めなくなるでしょ？今はうつるのが怖いから、右往左往してしまうけど、ワクチンが開発されたら収まるはずだから。今、過渡期なんじゃないかな。大震災があった、でも、今、騒いでないよね。

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

雷とか台風とか大好き。地球が生きている感があるから。
環境が変わることで進化って生まれるのよね。

太古の昔ね、馬は北アメリカで生まれたの。でも今現在、シマウマはアフリカにいるじゃない。なんでだと思う？昔って陸地が自由に動けたのよ。葦とか浮島とかあって、それが流れてアフリカとかに行ったと言われているの。今は、海岸も山も固められて、動物自体が動かくなったの。地球があくびをしただけで、人間は怒るよね。

環境が変わることで進化って生まれるのよね。どこの大陸でも、肉食獣、ニッチって言って、生態的な地位があるのよ。そこに当てはまるようになるの。環境が変われば、空きができて、進化をするはずなんだけど、今はそれを止めている状態。だから、人為的に起こさないと進化が起こらないのかもしれない。進化が止まった、進化しないんじゃないか？という危機感はあるの。

取材：川北睦子

Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved